



令和6年2月14日

各位

会社名 株式会社アプリックス  
代表者名 代表取締役社長 倉林 聡子  
(コード：3727、東証グロース)  
問合せ先 経営管理部 担当部長 岩井 俊輔  
(TEL. 050-3786-1715)

## 連結業績及び個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

令和5年12月期（令和5年1月1日～令和5年12月31日）の連結業績及び個別業績につきまして、前期（令和4年1月1日～令和4年12月31日）の実績と比較して差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結業績の前期実績との差異

##### (1) 令和5年12月期連結業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	一株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (令和4年12月期)	百万円 3,501	百万円 49	百万円 51	百万円 138	円 銭 6.28
当期実績 (B) (令和5年12月期)	3,758	203	201	303	13.68
増減額 (B-A)	256	154	149	164	—
増減率 (%)	7.3	312.4	288.7	118.2	—

##### (2) 差異の理由（連結業績）

令和5年12月期においては、主にストックビジネス事業が引き続き好調だった結果ストック売上が積み上がったほか、システム開発事業においても顧客リピート率が高く安定的に売上計上できたこと等に伴い、売上高が前年より増加しました。また各利益については、主にストックビジネス事業の業績が好調に推移していることに加え、連結子会社であるスマートモバイルコミュニケーションズ株式会社が運営するMVNOブランドの未収債権の回収を実施した結果、当初想定以上の回収が実現し当該未収債権に関する貸倒引当金の取崩額等が約45百万円発生（販管費のマイナス）したこと等を要因として、各利益いずれも前期実績との比較において増加しました。

#### 2. 個別業績の前期実績との差異

##### (1) 令和5年12月期個別業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (令和4年12月期)	百万円 600	百万円 △62	百万円 △56	百万円 △12	円 銭 △0.56
当期実績 (B) (令和5年12月期)	645	△92	308	452	20.42
増減額 (B-A)	44	△30	364	464	—
増減率 (%)	7.4	—	—	—	—

ご注意：本リリースは、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。  
本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。  
よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

(2) 差異の理由（個別業績）

売上高につきましては、上述のとおりシステム開発事業において顧客リピート率が高く安定的に売上計上できたこと等を要因として、前年より増加しました。

営業利益については、システム開発案件増加に伴う外注費の増加、採用・教育に伴う人材投資関連費用の増加等を要因として前年より減少しました。

経常利益については、令和5年11月13日付適時開示「連結子会社からの配当金受領に関するお知らせ」でお知らせしたとおり、連結子会社であるスマートモバイルコミュニケーションズ株式会社（以下「SMC」）より受取配当金400百万円を受領し営業外収益に計上したことに伴い、前年より増加しております。

当期純利益につきましては、上記の営業外収益に加えて、グループ通算制度によりSMCが当社の欠損金を控除したこと等により通算税効果額110百万円が発生したため、前年より増加いたしました。

以上